大野市制施行70周年プレイベント

文化財を楽しむ対談会

春風亭昇太・千田嘉博 越前大野城を語る



日程:令和5年9月28日(木)午後7時開演(6時開場) 会場:大野市文化会館大ホール

大野市文化財保存活用地域計画(文化庁認定)推進事業



ごあいさつ

昭和29年7月1日に大野市が誕生しました。 令和6年度に市制施行70周年を迎えるにあたり、実施す る記念事業のテーマを「いつまでも、ともに」とし、多様な主体 が分野を超えて協働・連携し、「100年先も誇れる大野市」を みんなでつくり上げていく機会とします。



本日の「文化財を楽しむ対談会」はそのプレイベントとして、落語家で城郭愛好家 の春風亭昇太師匠と、城郭考古学者の千田嘉博氏のお二人をお招きし、越前大野 城に関する対談会を開催します。

さて、本市はこれまで、住みよく生きがいのあるまちづくりを目指して、市民と行政 がともに歩んできました。令和3年2月には大野市の最上位計画として「第六次大野 市総合計画」を策定し、将来像を「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結 のまち」と定め取り組んでいます。さらに、令和4年2月に、文化財の保存と活用の方 針を定めた「大野市文化財保存活用地域計画」を策定し、令和4年7月には文化庁 の認定を受けました。「大野市文化財保存活用地域計画」は、文化財の調査や保護 に加え、積極的に活用することで、基本理念である「文化財を生かした人づくり・まち づくり」の実現を目指しています。

今夜は、大野市のシンボルである越前大野城の魅力について、全国の城郭に詳 しいお二人に語っていただきます。また、アトラクションとして、奥越太鼓(おおの遺産) と、神子踊(福井県指定無形民俗文化財)が披露されます。

限られた時間ですが、本市の文化財の多様な魅力をお楽しみください。

令和5年9月28日

大野市長 石山志保

第1部 アトラクション 午後7時00分~

おちの遺産 奥越太鼓	奥越太鼓保存会	
がんこおどり 福井県指定無形民俗文化財神子踊	神子踊保存会	
文化財の保存と活用について	市指導学芸員	
~ 休 憩 ~		

おくえつだいこ 奥越太鼓

荘園時代より大野の地で行われてきた太鼓は、やがて「豊年太鼓」や「雨 乞い太鼓」として発展し、人々に親しまれ伝承されてきました。

第二次世界大戦によって衰退しましたが、昭和36年、大野商工会議所と 奥越観光連盟が中核となり、今日の『奥越太鼓保存会』の前身である『奥 越曲太鼓朋友会』が結成され、奥越太鼓の保存・育成に努めています。

地域に大切に守られてきた伝統芸能や年中行事を、次世代に継承するこ とを目的に、大野市が認証する「おおの遺産」に、令和元年度に認証されて います。

かんこ**おどり**

神子 踊

神子踊は上打波地区に伝わる踊りで、福井県指定無形民俗文化財に登録されています。

かんこは、胴長の締め太鼓で、長さが | 尺 5 寸(約45cm)、直径 | 尺(約 30cm)程度のもので、踊り手の一部が、左肩から吊り下げ踊りながらたたき ます。また、太鼓を使わない踊り手は、右手に

扇を持って踊ります。

一晩中踊っても、同じ歌詞を繰りかえ さないと言われるほど、唄の数が多いの が特徴のひとつです。



第2部 対談会 午後7時30分~

「春風亭昇太・千田嘉博 越前大野城を語る」

出演	落語家、城郭愛好家	春風亭 昇太 師匠
	名古屋市立大学特任教授·奈良大学特别教授、	
	城郭考古学者	千田 嘉博 氏
司会	市指導学芸員	田中 孝志

※第2部の録音録画、写真撮影は、禁止とさせていただきます。

春風亭 昇太 しゅんぷうてい しょうた

公益社団法人落語芸術協会会長。日本テレビ「笑点」6代目司会者。新作 落語の創作活動に加え、独自の解釈で古典落語に取組み、第 55 回文化庁 芸術祭(演芸部門)大賞を受賞するなど、新作、古典問わず高い評価を得て いる実力派真打。

さらに、演劇への出演も多く、役者としても活躍し、ミュージシャンとのライブ も意欲的に行うなど、ジャンルを越えて積極的に活動している。

また、長年にわたる「お城めぐり」が高じ、著書の執筆、城郭フォーラムのパネラー、講演、城イベントへの出演も多い。

千田 嘉博 せんだ よしひろ

城郭考古学者。大阪大学博士(文学)。国立歴史民俗博物館 助教授等を 経て、2005年より奈良大学 准教授、2009年から教授。2014年から 16 年に奈良大学 学長。現在、名古屋市立大学 特任教授。この間、ドイツ考古 学研究所、イギリス・ヨーク大学に留学、ドイツ・テュービンゲン大学客員教授 を務める。

2015年に優れた考古学者に与えられる濱田青陵賞を受賞。

著書に『信長の城』岩波新書、『城郭考古学の冒険』 幻冬舎新書、『歴史 を読み解く城歩き』朝日新書など多数。